



ショートコメント

★★★★★

Data 2025-117

監督・脚本：ターセム・シン
製作：デヴィッド・フィンチャー、スパイク・ジョーンズ

出演：リー・ペイス／カティンカ・アンタルー

落下の王国 (4K デジタルリマスター版) (THE FALL)

2006 年／アメリカ映画
配給：ショウゲート／120 分

2025 (令和 7) 年 11 月 28 日鑑賞

テアトル梅田

👁️👁️ みどころ

名作は何度観てもいいもの。それは「午前十時の映画祭」が 15 年間も続いていることから明らかだ。

他方、全然知らなかった映画ながら、鑑賞した後、星 5 つをつけた名作が 4K デジタルリマスター版でよみがえると、私の鑑識眼の確かさが実証できたことになるので、嬉しい限りだ。

しかして、なぜ本作が“復元”されたのかはわからないものの、本作の 4K デジタルリマスター版が公開されると知ると、「こりゃ（再度）必見！」と考え、映画館へ！そして大満足！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆本作のチラシには次のとおり書かれている。すなわち、

2008 年の日本公開以来、配信されることなく“幻”とされ続けてきたカルト的ファンタジー『落下の王国』。『ザ・セル』で鮮烈なビジュアル世界を築き、世界に衝撃を与えた“映像の魔術師”ターセム監督が、構想 26 年、撮影期間 4 年の歳月をかけて完成させた一級美術品が、ついに圧巻の 4K デジタルリマスターで甦る。

他方、本作を 2008 年 8/21 に鑑賞した映画評論（『シネマ 21』370 頁）のみどころに、私は、次のとおり書いた。すなわち、

……スタントマンは「FALL」が商売。とはいえ、そのため下半身不随状態（？）では、やってられない……？5 歳の少女に対して語って聴かせる物語は、千夜一夜物語ばりの「でっちあげ」だが、映像はすべてホンモノ！北京五輪における口パク事件や少数民族偽装事件と比べながら、仮想でもない CG でもない、ホンモノの味わいをタップリと……。

近時さまざまな名作が 4K デジタルリマスター版で公開されているが、本作がそんな 1 本に選ばれたことに感謝しつつ、17 年ぶりに本作を大スクリーンで鑑賞。

◆本作の原題がなぜ『THE FALL』とされているのかは、本作冒頭に昔々のニュース映像のような形で表示される。大きな川にかかった大きな鉄橋からの、あるモノの引き上げ風景を見れば何となく・・・？一体そこで何をしているの？そう思いながら注意深くそれを見ていると、最後に川の中からロープにかけられて引き上げられたのは1匹の馬だったからビックリ！

この冒頭のシーンと、アレクサンドリアと同じ病院の違う棟に足の骨折で入院している青年ロイが「スタントマン」という職業だったことを結びつければ、何となく『THE FALL』という原題のイメージも湧いてくる。しかし、それに気がつくのは一体いつ？そして、このスタントマンの男ロイは何のために、アレクサンドリアにそんな思いつきの話を次々と物語っているの？それがわかるのは本作後半になってからだが、なるほど、なるほど・・・。

◆2008 年に同作を鑑賞した
当時、私は大阪日日新聞に「弁
護士坂和章平の LOW DE
SHOW」のタイトルで映画評

論を連載していたが、08年9/27のそれは本作だったので、それを転載しておく。

千夜一夜物語を語り続けるのは何のため？ ロイが即興ならってメチャ面白

物語をベッドの上でAに語り続けたのは何のため？ 大切なことは物語を完結させず、興味と関心を持続させ、「続きは明日」と期待を持たせ続けること。洗脳」とAの手足によって、自慰するに足らないロイが人手を狙った薬とは？

そんな波乱要素を含みながら毎夜繰り返される物語の面白さはロイとA

「一夜」映画観たにない！

一版「シネマ観たにない」ラストは「トートベンの交響曲」や「第三楽章」が流れるセリフの特選だ

「活劇のスタンダード」が、さてこれをどう解釈？ たまには童心に戻りたくなっちゃう大人な叙事詩

「ロイ」の物語は、ロイとAの父親も黒い歴から、A自身も仮面後の劇中に登場！

千夜一夜物語を語り続けるのは何のため？ ロイが即興ならってメチャ面白

物語をベッドの上でAに語り続けたのは何のため？ 大切なことは物語を完結させず、興味と関心を持続させ、「続きは明日」と期待を持たせ続けること。洗脳」とAの手足によって、自慰するに足らないロイが人手を狙った薬とは？

そんな波乱要素を含みながら毎夜繰り返される物語の面白さはロイとA

「一夜」映画観たにない！

一版「シネマ観たにない」ラストは「トートベンの交響曲」や「第三楽章」が流れるセリフの特選だ

「活劇のスタンダード」が、さてこれをどう解釈？ たまには童心に戻りたくなっちゃう大人な叙事詩

「ロイ」の物語は、ロイとAの父親も黒い歴から、A自身も仮面後の劇中に登場！

2025（令和7）年12月1日記